様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３７３０５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０４０４３

研究課題名（和文）初期ソローキン社会学にみる利他主義研究の萌芽―ロシア時代の未公刊・新資料の分析

研究課題名（英文）The Sociology of Altruism pursued by the Young Sorokin: Critical Analysis of newly published or unpublished documents

研究代表者
吉野　浩司（Yoshino, Koji）

長崎ウエスレヤン大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：４０７５５７９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で明らかになったことは、P.A.ソローキンの最大の功績は、利他主義社会学の創造であったということである。そのために、あまり知られていなかったロシア時代の未公開文書を、彼の後年の社会学的著作と照らし合わせるという作業を重ねた。またそれにより、亡命ロシア知識人という彼の立場が、それに大きく影響を与えていることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
人が幸福に生きるためには、「きずな」や「連帯」が重視されるようになった。それを増進することをめざす利他主義社会学が、ソローキンの手によって着手されていたことを明らかにするとともに、その内容の整備のための土台作りに成功した。またロシア、チェコ、イタリアなどでのフィールドワークの結果、ソローキンを中心とする国際的な研究サークルを形成することができ、今後の国際的学術交流の基礎を築くことができた。

研究成果の概要（英文）：What I clarify in this study is the greatest academic achievement of P. A. Sorokin is in his sociology of altruistic. It was accomplished by comparing the unpublished documents in the Russian era that were not well known today with his later sociological works. In addition to this, I made it clear that Sorokin's experience of emigration from Russian and life as one of the exiles influence on his sociology largely.

研究分野：社会学史

キーワード：社会学史　ソローキン　利他主義　ロシア　チェコ　イタリア　亡命知識人

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ロシアで生まれ、アメリカに亡命した社会学者ソローキンは、これまでの社会学史の中で、いささか過小評価されてきたきらいがある。特に、ハーバード大学での T.パーソンズとの確執から晩年の利他主義研究に没頭した時期については、研究者の間でも「異端視」するような空気に包まれている。

幸いなことに、1996 年に刊行された B.ジョンストンによるソローキン伝をさかいに、徐々にではあるが、ソローキンの社会学は再検討されるようになりつつある。というのが、研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

本研究の目的は、アメリカ社会学者であるソローキンの利他主義研究の着想が、ロシア時代の著作や思想の中にあるという仮説を検証することにある。利他主義という用語は、これまで社会学の中心的課題に位置づけられてきたとはいえない。しかし、2000 年代に、ロシアにおけるソローキン研究の再考の機会が訪れるとともに利他主義への関心は急速に高まり、それがアメリカ社会学会にも飛び火し、アメリカ社会学会における利他主義セクションの設置にいたった。ソローキン社会学、とりわけ最近注目を集めている利他主義研究の現代的意味を、その思想基盤であるロシア時代の著作、さらには彼が生まれ育ったコミ地方の文化・習俗までを視野に入れて明らかにしようとするのが本研究の目的である。

３．研究の方法

まずはソローキンの著作と二次資料の徹底的な読解作業を行う。それにより、現地でのフィールドワークの共同研究者を特定する。アポイントを取ったあと、現地の研究者へのインタビューを行うとともに、図書館やアーカイブでの調査でも協力を仰ぐ。それにより現地での関連文献の徹底的な調査を円滑なものとする。

上記の課題を果たすための資料は、そのような方法でそろえられる。その集まった資料の分析を通じて、これまでの研究では見えてこなかった、ソローキン社会学の新たな一面を描き出す。そのようにして浮かび上がってきたのが、利他主義社会学の提唱者としてのソローキンの姿である。

４．研究成果

本研究の目的であるソローキンの利他主義研究の着想をロシア時代の著作や思想の中に探り当てるという課題は、十分に達成することができ、学会報告および雑誌論文という形で発表することができた。

ロシアのサンクト・ペテルブルク、モスクワ、ボログダという都市では、現地の学者との学術交流を深め、ソローキン研究の本場で大学生向けに講演を行うことができた。またチェコではプラハやブルノを訪れ、亡命時代のソローキンの足取りを追うこともできた。亡命知識人としてのソローキンの姿をあるていど描き出すことができた。他方、イタリアのローマ、サレルノ、パドゥヴァでの現地調査では、ソローキンのイタリア社会学との影響関係を確認することができた。2019 年 5 月現在、これらの成果を英語で発信すべく、上記のロシアとイタリアでの論文の投稿を、すでに終えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 8 件）

1.吉野浩司、2017、「アメリカ社会学会における利他主義セクションの可能性 ： ソローキンの統合主義社会学の視点が投げかけるもの」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』 15(1), 23-31

2.吉野浩司、2017、「寒村トウリヤからサンクト・ペテルブルク大学までの足跡を追って ：P. A. ソローキン『長い旅路』第 2 部をめぐる現地調査」『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』15(1), 5-22.

3.吉野浩司、2018、「Π.A.ソローキン「哲学者としてのトルストイ」の社会学的意義 ： 利他主義が必要とされる根拠をめぐって」『社会学史研究』(40), 73-92

4.吉野浩司、2018、「1920 年代の亡命ロシア知識人とチェコスロヴァキア社会学 ： ソローキン『長い旅路』第 3 部をめぐる現地調査」『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』16(1), 53-70

5.吉野浩司、2018、「自己愛と利他愛のむすびつき ： ソローキンと E.フロム」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』 16(1), 7-15.

6.吉野浩司、2018、「「善き隣人」としての妙好人 ：P. A. ソローキンの利他主義研究の日本への応用」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』16(1), 17-26

7.吉野浩司、2019、「亡命ロシア知識人としてのソローキン」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』 17(1), 101-110.

8. 吉野浩司、2019、「現代イタリア社会学におけるソローキン研究」『長崎県立大学論集』52(3・4) 1-28

〔学会発表〕（計６件）
1.吉野浩司、「Ｐ．Ａソローキン「哲学者としてのトルストイ」の社会学的意義」、第 56 回日本社会学史学会（東京女子大学）2016 年 06 月 25 日～26 日
2.吉野浩司、「アメリカ社会学会における利他主義セクションの可能性：ソローキンの統合主義社会学の視点」第 89 回 日本社会学会大会（九州大学）2016 年 10 月 8 日～9 日
3. Yoshino Koji, “Sorokin Study in Japan,” (Public Lecture at St. Petersburg State University, 15 Sept. 2016）
4.吉野浩司、「自己愛と利他愛のむすびつき―ソローキンと E.フロム」第 57 回 日本社会学史学会大会（広島大学）2016 年 06 月 25 日～26 日
5.吉野浩司、「「善き隣人」としての妙好人」第 90 回 日本社会学会大会（東京大学本郷）2017 年 11 月 4 日～5 日
6.Yoshino Koji, 2018, “Non-European and Non-American elements in Sorokin's Sociology,” International Conference at Yakutsk, Association of North-East Asian Cultures, 14 July, 2018.

〔図書〕（計１件）
1.吉野浩司、2018、「第 11 章 井筒俊彦の〈方法としてのイスラーム〉」、八木紀一郎、柳田芳伸編『埋もれし近代日本の経済学者たち』昭和堂所収

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。